



取婦 子かき
九 女子の 兼とあり
皇初の 燈籠とす 中子

美男 粉の一 舞 町 鳥 足
夜酒 波の 志 廣 溜 々 々
さう 如き 刺 い 々 々 月 作
臍 押 子 りん 々 々 竹 の 葉 の 回
井 ち ぎ め 々 々 々 砲 鼠 乾

うゝとあし母金魚持ふの月
 地獄の蓋も三番叟々
 素麺の捲カハハ来種
 酒好くしは品補一石
 明後也ぬい常くの責鼓
 ちこつた親の侍のらり
 荷作き子新系と掃出
 反吐りまり官法馬前
 名をく懐弼獄夕島
 久しうしあひハ喜
 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯

三

映 景 生 興 い

北 笛 高 連

卯のむしをいふと 兎る 空位
 ちこつた油一舟のうら子 芥文
 雉と鴉のち極ちの帰く 水花
 へび人にとくは手 心鶯
 赤んぼの輪の指札 極の月 輕人
 素 節 花

唯も子極めく鳩の如き鳥也
 女中より舟あり舟と名と実
 河をわたり唐英人の子の毛の管
 求肥の志あり流るる糸
 三百里あり立流るる鹿鹿神
 湯の道入るる竹の交
 雅毅のうら子先祖の位牌柳
 鹿鹿、とりち伊丹大鹿
 男しりあぢち守も鞍こ
 字ありまの木の根か月
 佐人 乾花 史佐人 乾作 史

七子、唯唯の鳥と花書
 皮計 乾るる席杖の節
 物着せくくありこ、版作らるる
 椎名、ありありも直るる
 与る、流るる鳥、頼切さし
 室、あり神、黄路も竹
 書、乾くしありとあり、乾るる
 角、懐るると席好、誓首寸
 樂、包つるるあり、白波の書
 版、乾るるあり、乾るる
 史 花 乾 史 佐 花 乾 史

7 楠柳の時と一夜の落の息
 惚く見たりと軽ぬいす
 河下よりさき守に踏みのり
 湯よりけぬけ短衣の太
 上へは早歌うさの古き所
 軍へはは晴笑はるり
 壱前の夜、夜半より
 町契結の親、瀬子混
 岸船の帯の光を掃月
 花の書り拓一具備
 同

科もよぬ喜の原うら紅
 し、糸かきと巻うらえ
 大泥もよぬの祝みの原
 佛師よりたれきも探
 由館つらりと合じ目の中
 快向の八百い橋迷子呼
 分るる落く散掃く茶
 詠くと松の瓦折明也
 まるる利くあ部さる

夕ふきの踊子越に名乞り
 内やくへいと麻子角あり
 月に浮戸柱の影をぬい名
 切せ下葉の如きん道屋
 鞠塚と葉子りよ苔の行
 死すものふいと酒く梅り
 ちけしもの吹草ぬと披道
 鼻とさきしと星とん多
 座と毛子自ら履りにあり
 田とて心重に様
 公 人 公 公 公 公 公

無事(連)菴興行

化笛(連)

初水木の二階の言う非 只作
 禍炭等いん志ぬ鴨 馬周
 口か増圃ふおや仰せん 祇山
 膝いをり名禱おし出ス 駁来
 波の月當く碎けゆる酒 柯卜
 けりこの力い輪の穂中せ 外

新伊勢もかきしけりあゆみの神の路
輪舟中つれ違入頼道
松香のりかきりも碇碇来
卯とちやんを来と切し志分
亭ろくこ船おの船碇拍子
津い出くいの為るの輪碇
由初穂と松の路の巻
幕ヤム藩へ引越や毛
をろくと白舟をと肩より
山陰子牛舟の寸三切
山

キ

門路やん八町四の船前
あけらの子割先おん割
末舟おれんあ舟の友苗
伏えの時猪大けし統
楯のあふやんすりりり
あつれけりり駒
そつお新舟の志ぬ後の中
五寸やん碇 満舟もかき
舞も舟も久しく碇りり
古た碇より古た碇りり

+

7

夫 正の礎 垢もの 山
 狼不氣く 瘦く 山
 忽ち湯壺 淋し 男伊達 卜
 竹田 聖り 辰の日 辰 勢
 老葉 向く 日一筋 結 佐
 石好子 あり 芳 山
 作病 減り 掛り 山
 三島 子 軒 下 田 山
 代この 火 強き 友 山
 山

牡丹高興行 化笛迄

清水寺湯縁の折あひく

縁守や廿万日 兼市り 欠
 雪蝶くの 庵子 滝 殿 玉
 更む 袴 大工の 粉 強 杜
 弱 豆 管 果 然 的 兼
 薄 月 子 獅子の 首 毛 と ね 鶴
 ちりりく 舞 一の 乳 鶴
 山

とうとうと松解野の園板
 蓬茅旋毛の道新精吟
 玉の如き梅も引附遊技隣
 葡萄の濃の人もかきこ
 庭中ん軒新梅く見の輪人ホ
 以侍る軍一も羽のかい機
 黄ふりてのとまも迷惑池屋補
 摩利支天くし舞も一丸
 梅くくばらう属也流へ
 かこく 莖 芝の さい 樞
 執事

五十一

六生事河東の野興の

化笛笛進

藍瓶の戸も暖か初年
 抱くゆかりの極中
 足乃毛の車は余笠ありて
 瓶の角力に此換も
 梅の駒うく梅の月
 春のくしや流し新明る

穴作 如菜 李郎 福舟 大梅 菅魚

打拂十二支の向ふ吉田山 葉室
 作木おろろり無しの心 心勢
 らまの世も一書よねわると音の中 執筆
 度年の葬と過くく待 梅
 地りの砂と耐ると物 菜
 初台一可大新屋の炭 佐
 籠け雷境 谷境 魚
 舟は進くもこの借鞍 室
 苗代のもくく神とちの 舟
 ぬ小使よ可る字活川 節

主

橋の口五色の露の流 勢
 親く買手このり 勅封 菜
 村のよりる春の 張 佐
 友権と成く山如の縁 魚
 勅書の高陽のく息旭の声 室
 茨子よかや撰存のわ 舟
 りのよの奥の新宅の 燈 房
 樹のつく庭の屋倒れ 佐
 空橋と新海名の系へ 菜
 悪人の服流あく 勢

樽より酒湯と清きるれ
 毛理お板 大舟の石
 序不第精をてん燭十二松
 薬より光へきれ 庭わ
 鴨の葉より生るり 鴨まつけ
 蟹土よりく 益人の足
 あかしのけお 松島のあまの松
 まゆじりさきもさきとれ
 くに 船形 庭梅のあ
 心明こそ 一 際
 室 菜 舟 梅 鶴 室 舟 船 梅

松皮より 菰紫の若のまゆ 海
 大佛
 菰との毛く 杜るり 芝の光 葉四
 東鳥
 首より 枕も 毛を 羅生門 信安

比叡

片町へ 都を比叡のうへへ 方設

嵯峨

三宮や 奥儀の葎 小倉山 知石

梅了や せふらうし 筏舟 竹宮

馬雄

荒川の幕へ 這入や 下野家 水色

十架首

神の末 始末ふらぬ 時鳥 棠梅

知恩院

山門の涼女や 眼鏡上弦也 若者

と条橋

白馬やかもと 山崎く 牛車 旭里

祇園

七々ふまらぬ 祇園皇廟切 秋陽

喜相止

時鳥の けりたりや 鼻下 潮 巴叉

上か首

鞭と けりたり 是の 片是 貞 教雨

六波羅

皇太子の御成婚の御時

由池州靈泉

鳥丸の西押小治小治地所と呼ぶ
其泉のりる丞相殿下の記に十景と稱
後深誠院の由字は唐申の孫叔宣
と云ふ一旧地と云ふ岸訖氏起ると云ふ故
と信す 巖島と云ふ所は秋運能の所と云ふ

玉付島や新嶺を由月名者仙鶴

安中

唯此の安中と云ふの深き人

海原

おもしろき玉の山花吹雪よ

秋心

あゝ投出さるる梅もさるる

皇太子

大抵人の仕りよりの所を

お条増寛

お条増寛や青葉梅の屯

心清

お条増寛は子朝の時を

六角亭

六角の柳もみりききこか 柯下

犀のふら日てりそ洗解 杜海

比叡

雪ふかたれききき牡丹 玉芝

由新堂

音尼い様もききききき 葉室

蟬小門

称名のききき小門や冬月 祇山

東河原

川物や昇りしきききき 茨丈

花園

花園の物まききききき 鶴子

出口

境々の柳もみり額 際 都菜

床橋

糸のききききききき 谷咲

岩倉

岩倉やのきききききき 氷花

高津門

原子初遊舟や船荷於 舟

鞍馬

鷲の目ふ 浪々々々 孝節

坂

木枯子塔、鐘々々々 百人

涼 津奥橋

神と出のまは涼 裸橋 岩竹

伏見

新橋(ま)ま(ま)ま(ま)

星々 普永 忌作 龍気 坂屋 岩竹

柱伏陽欣淨寺百具

鹿のふに下知と交々如運苗 岩竹

なごの鼻と葺 泥龜 七里

樂サハ流の面名と建正七 蓋水

舟子儲サハ富貴とまらわ 志所

移転の夕香 舞花 研鹽 幸化

川の車 丹川 八三 志友

洗売の乾とく、稷桐、益也、青
黄、架を、向う、娘、了、極、ん、民、也
手、く、年、く、し、鴉、と、鴉、か、う、と、鳴、
無、下、子、消、成、飯、お、中、ん、言、
極、強、や、強、の、沖、の、吸、糸、
洞、然、と、思、ひ、に、り、水、中、ん、臨、
岸、と、極、ら、う、う、法、と、海、市、
表、と、助、ら、う、法、新、と、や、
音、隠、と、向、う、を、け、う、繩、月、
し、多、く、踏、く、山、と、松、松、
也、化、友、水、里、
仁、鶴、
輕、人

五十一

一、用、る、う、毒、子、は、泣、れ、必、の、皮、
仁、多、く、目、と、突、目、門、杖、こ、
お、迦、中、ん、只、子、木、心、う、
佛、狐、の、尾、を、り、玉、章、
歎、後、觀、と、毎、日、い、ま、ま、さ、し、
若、あ、ま、ま、り、も、友、中、ん、所、
浴、陽、と、お、強、府、の、水、中、
納、と、お、ま、子、六、つ、
雷、の、峰、と、越、く、新、所、
里、
乾、
友、
化、
水、
里、
也、

月をわく痛刺かきさる水
くけ法の免し格のそん也
心家も解のつんちんを
照くくくする 朝日中
中切と結るる 縁うら
すのらに 害 殊炮の穴
好のの隅子康瓶と枕
石の母の巻子なる 勿辨
後の中し巻の 一と至七
皆網仲方新 一と至七
也

高き字 九のり
ねね 右のり 一葉のり 七里

十町目

呉舟の和や岸の志し 民也

善徳様寺

主色の 唱ぬわくや又手栴 半化
きん 井

いつくの舟の縁縁首と他
物に怪き 是の 舟尚
多華とて此の舟の犬車
物も 軒の舟の 岡際
浮世舟のしこ撞木とて
赤尾と 墓の 坂町
東西の情より 車井戸
強し かの 下 銀の下 早
火と舟の 舟の 舟の
蕨くまの 舟の 舟の 舟

舟

舟の心対れ 一時
夜の舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の

為房の刺さる船もさしをり中
其の程の骨も杵とみり上他
先夜と云く入る後の糸縁
女もくくろ家ハ 蕨もり
極く挽扱る山一りの新伝
干し船と糸と裂て紙と縁
年切しの陸奥舟も南へ至連
高もろの磯れ汗の毛も中
海もろろ麻とろろの糸果等
凜とろろて振い首ッ交連

ハ葉と紙とく乱る十之松源
むよけのろろや他曲の松茸
蕨れ如くろろり 絶屑中
約麻糸ハハちろろやろろ
一とこの履ハ二人ハ柵と結
地もろろろハハハハハハハハ
母とろろの波もろろけとろろ
家つろろしとろろろろ初ろろ
白く出ろろろろろろろろろ
小母ハハハハハハハハハハハハ

女まゆ

女まゆは海老のしりしりおき

おき場

うすくしりしりおき入る鳥 吐線

八音梅

吉梅の星やゆく二八間 吾等

新町

傾城のしりしりおき 初裕 哲中

御旅所 天満宮

神祇の源しりしりおき 拍子 吹竹

功急過

東冷轉

芭蕉の格

鳥の音

瑞生

宿三由堂... 清... 輕... 神... 隱... 日... 乘... 獨

日就月將... 將... 隱... 乘... 獨

盈車中南之經始被取者在
 須可為於面之氣自為新
 道城之樂也守

享保十一丙午年五月朔日



江戸日本橋南一丁目
 萬屋清兵衛藏板

俳諧書目録

俳諧類輯子 其角撰 三冊

同後餘花子音勺 沾徳撰 二冊

同代々蠶 貞佐撰 五冊

同俳度曲 識月撰 繪證 二冊

同百集亥 沾涼撰 全 二冊

同徵雨比梅 露月集 全 二冊

同誦太高 湖十撰 二冊

同梨乃園 貞佐撰 二冊

紅葉軒壽梓

俳諧魚尾琴 其角撰 三冊

同續乃系 不_レ撰 二冊

同續江戸筏 沾涼撰 繪證 二冊

同百福壽 沾涼撰 繪證 二冊

同續 沾涼撰 繪證 二冊

同花燈籠 常陽撰 二冊

同或問珍 吏登撰 一冊

同爰想扇 一冊

江戸日本橋南一丁目
 萬屋清兵衛藏板

